

4章

沿道建築物等 のデザイン

4-1 目指す方向性

- 中央通りの再編に伴い沿道を中心に開発が促されることで、周辺地域への賑わいの波及や都心居住の増加が期待されている。また、都市や建築にはSDGsや脱炭素社会の実現、ヒートアイランドの抑制など、地域と地球の環境への貢献も求められている。
- 中央通り沿道を中心とする新たな再開発等における協議や調整を通して、ニワミチよっかいち基本計画のコンセプトやデザイン方針に沿って、都市の景観や建物の環境性能に配慮した高質な沿道建築物等を誘導する。中央通りの望ましい沿道建築物等のデザインとして、以下に3つの指針を示す。
- 中央通り周辺地域のまちなみの在り方についても、関係者との議論、検討を進め、適宜景観形成戦略に追記を図る。

望ましい沿道建築物等のデザイン

① 低層部への賑わい施設の導入

建築物低層部には、商業施設などの賑わい施設を導入し、通り沿いにはテーブルやベンチ、日影をつくる庇やオーニングを設えるなど開かれた空間とすることが望ましい（中央通りの利活用空間の活用も検討）

② 回遊性向上に寄与する滞留空間の設置

歩行者の移動空間に面する建築物では、まちなかウォークアブル推進事業（一体型滞在快適性向上事業）の活用など、歩行者の回遊性向上やまちの賑わい創出に寄与する滞留空間を計画することが望ましい

③ 豊かな緑の導入や建物の環境性能向上

壁面緑化や①②等の取り組みに合わせた豊富で多様な緑の導入、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）実証事業を活用した建物の環境性能の向上など、地域と地球の環境への貢献に取り組むことが望ましい



事例：コンフォートホテル四日市 ①賑わい施設 ②滞留空間 ③豊かな緑の導入
※三重県初まちなかウォークアブル推進事業を適用



事例：福岡銀行本店 ①賑わい施設 ②滞留空間 ③豊かな緑の導入



事例：四日市三交ビル ①賑わい施設 ③建物の環境性能向上
※三重県初CASBEE—スマートウェルネスオフィス認証最高位Sランク取得
経済産業省ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）実証事業採択

「ニワミチよっかいち」
景観形成戦略

令和8年8月

四日市市 都市整備部 市街地整備課
〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号
TEL：059-354-8200
FAX：059-354-8404
E-mail：chuodori-st@city.yokkaichi.mie.jp

